第２回 新幹線のバリアフリー対策検討会 結果概要

日　時：令和２年８月２８日（金）１３：３０～１４：３０
場　所：中央合同庁舎３号館４階 幹部会議室

赤羽国土交通大臣挨拶（開会）

（赤羽国土交通大臣）

・「バリアフリー政策」は、高齢者や障害者などの社会的弱者のための福祉政策ではなく、全ての人がお互いの尊厳や人権を尊重し合い、誰もが積極的に社会参加することにより、生き生きとした人生を享受することのできる、成熟国家として相応しい「真の共生社会」の実現のための政策である。
・東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーも「真の共生社会」の実現であり、本大会の開催を契機として、障害の有無や国籍の違いに拘わらず、誰もが快適に移動や旅を楽しめる環境の整備に向けた気運が高まりつつある中、国土交通省としてもバリアフリー政策を加速してまいりたいと考えている。
・その中でも、我が国を代表する交通機関である新幹線のバリアフリーは、真の共生社会の象徴となるべきものであり、抜本的な改善が必要と考え、昨年１２月にこの検討会を設置した。
・その後、本検討会の下でのワーキンググループにおいてハード・ソフト両面からの議論を重ねるとともに、２度の実証実験による検証など、この８ヶ月間、障害者団体の皆さまとＪＲ各社との間で、丁寧な議論がなされたと承知している。
・また、この間、新型コロナウイルス感染症が発生・拡大し、その対策として、「新しい生活様式」に係る新たな取組みが求められており、交通分野においても、より安全で、安心な、きめ細かな利用者ニーズの実現が、これまで以上に求められることが考えられる。こうした観点から、ウィズコロナ時代における、交通機関の更なるバリアフリー化は、今後益々重要視されるものと考えている。
・ワーキンググループの議論の結果、新たに「車椅子用フリースペース」の導入が検討されており、この「車椅子用フリースペース」が実現すれば、安全性や速度、ダイヤの正確性などで世界に冠たる我が国の新幹線が、バリアフリーの面でも世界最高水準の称号を得るものと確信している。
・本日は、これまでの検討結果として、車椅子用フリースペースを含むとりまとめ案について、ご議論をいただく。このとりまとめを踏まえ、世界各地から多くの方々が訪れる東京オリンピック・パラリンピックに向け、この世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の一日も早い実現を目指していきたいと考えている。

議事：新幹線の新たなバリアフリー対策について（とりまとめ）

（事務局：岸谷技術企画課長）

・昨年１２月に本検討会を立ち上げて以来、障害者団体やＪＲ各社の皆さまとバリアフリー対策について様々な議論を行った。本日は、そのとりまとめ案について、ご説明をさせていただく。

（以下、資料１　新幹線の新たなバリアフリー対策について（案）の説明）

・東京大会のレガシーは「真の共生社会」の実現であり、それに向けて力強く前進する「歴史的転換」が求められている。現在の新幹線における車椅子スペースは、

通路にはみ出てしまい、また、数が限られているため、グループで移動する際には、列車を分散しなければならない他、予約や購入にあたっては、時間を要するなどの課題がある。

・我が国の新幹線の安全性、スピード、運行頻度、ダイヤの正確性は世界に冠たるものであるが、加えて、東京大会のレガシーとして、「真の共生社会」の実現に向け、新幹線のバリアフリー化はその象徴となるべきものであり、障害の有無にかかわらず、誰もが当たり前に、快適に移動や旅を楽しむことができる、世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の早期実現を目指すこととする。

・「新幹線の新たなバリアフリー対策」のうち、速やかに実施する対策では、車椅子用フリースペースの導入を目指す。基本的な考え方については、障害のある方が一般の方と同様にグループで快適に乗車できるよう、車椅子用フリースペースを一般客室に設けることとし、スペース数については、１編成あたりの提供座席数に応じてスペース数を設定している。

・「車椅子用フリースペースの具体的な要件」としては、

①少なくとも２人以上の方が窓際で車窓を楽しめること

②通路は、乗客やワゴン等の通行に支障のない通路幅を確保すること

③ストレッチャー式車椅子を含む大型の車椅子が２人以上で利用可能なこと

④車椅子使用者の移乗用席を 2 席以上、それに隣接して介助者もしくは同伴者の席を 2 席以上設けること

を基本とする。

・次に車椅子用フリースペースの整備に向けた利用環境の改善について、車椅子用フリースペースに対応したウェブ予約システムの導入として、

①東海道・山陽新幹線において、車椅子用フリースペースの導入を待たずウェブで予約・購入を試行実施し、利用実態や利便性を検証する

②車椅子用フリースペースについては、車椅子スペースをウェブで予約から購入まで完結する利便性の高い予約システムの導入を目指す

としている。

・また、現在の車椅子対応座席等の予約・販売方法の改善として、

①窓口における乗車券類の発券の待ち時間の短縮を図るため、新幹線主要駅間において、関係部署の承認を待たずに発券できるようフローを見直す

②ウェブ申し込みを改善し、申し込み期限の短縮等により更なる利便性の向上を図る

としている。

・また、新型新幹線車両へのフルモデルチェンジのタイミングなど中長期的な検討課題として、

（１）車椅子用フリースペースのグリーン車や普通車自由席への拡充を検討する

（２）多目的室や車椅子対応トイレの利便性が高くなるよう見直しを検討する

としている。

・今後の取り組みについて、（１）早期実現に向けた制度改正などの取り組みとして、国において、東京オリンピック・パラリンピックにあわせて車椅子用フリースペースを備えた世界最高水準の新しい新幹線を導入するよう、基準やガイドラインを速やかに改正する。また、鉄道事業者は、それに従い、この新しい新幹線の早期整備に努めるとともに、利用者の利便性の向上に努めることとする。

・（２）障害者団体、鉄道事業者間のコミュニケーションについて、引き続き、障害者団体、鉄道事業者双方の意思疎通を図るとともに、新型車両の設計時にできる限り反映させる。

・（３）国民の理解・協力と真の共生社会の実現に向けた意識の醸成として、国を中心とした関係者が連携のうえで、新幹線の新たなバリアフリー対策の意義について、広く国民に向けた情報発信に努めるとともに、真の共生社会の実現に向けて、車椅子使用者のみならず、様々な障害を有する方々が快適に移動や旅を楽しむことのできる環境整備に向けた意識の醸成を図る。
・（４）技術開発の推進と成果の共有として、鉄道事業者においては、車椅子用フリースペースの導入等に向けて、コンセント、テーブルなど車椅子使用者にとって使いやすい設備の仕様等を検討するとともに、その成果について他の鉄道事業者との共有を進める。
・今後は、世界各地から多くの方々が訪れる東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、車椅子用フリースペースの導入を始めとして、真の共生社会を象徴し、牽引する、世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道を実現し、この新幹線の素晴らしさを一人でも多くの方が実感できるよう、関係者が一丸となって取り組んでいくこととする。

（ＤＰＩ日本会議：佐藤事務局長）
・私たちの声に真摯に耳を傾け、改善案を考えてくれた、ＪＲ各社のみなさまの誠実な姿勢に感謝申し上げる。
・車椅子用席は、総席数に応じて４席から７席となり、従来乗れなかったストレッチャー式の長い車椅子も乗車できるようレイアウトを考えていただき、また、現在の利用状況だけでなく、将来の利用増加も見越して席数を実現していただいた。
・ウェブ予約や迅速な切符購入にも各社ご検討いただき、これまで数時間待たなければ予約・購入できなかったものが、大幅に迅速化される見通しで、これは本当に夢のようである。
・この検討会を通じて、ＪＲ各社にはソフトもハードも思い切った決断をしていただいたと思っている。この英断により、これまでとは別次元の、正に世界最高水準のバリアフリー環境を有する新幹線が実現できると確信している。多様な車椅子ユーザーが新幹線を利用し、自由に手軽に国内旅行を楽しめる心ときめく未来がやってくる。ＪＲ各社のご尽力とご英断に、改めて深く、深く感謝申し上げる。
・このとりまとめで終わりにするのではなく、今後も定期的に意見交換をさせていただきたい。今回実現できなかった自由席やグリーン車への車椅子用席とトイレの配置、介助者も一緒に入れるトイレ拡大の課題は、ぜひとも次の新型車両開発時に実現していただきたい。
・この検討会は本当に素晴らしかった。私たちが納得するまで何度も何度も話し合いの場を設けてくださり、コロナ禍で難しい状況の中でも、感染防止対策をしながら、多様な車椅子ユーザーを実証実験に参加させてくれ、みんなが納得できるレイアウトを考えることができた。本日完成したとりまとめも、真の共生社会の実現の道標となる大変素晴らしい。とりわけ、障害者の尊厳を大切にしてくださっていることが伝わり、感動した。誠実に、私たち障害者にとことん付き合ってくださった赤羽大臣をはじめ、国交省の皆さまのご尽力に心から感謝。

（日本身体障害者団体連合会：荻津理事）
・新幹線での車椅子使用者に対する利便性の向上は、障害者にとって以前から願っていたことであり、実現に向けて動き始めたことは大変ありがたい。
・新たなバリアフリー対策により、これまで新幹線の利用を敬遠していた障害者の方も、乗ってみたくなったと感じていただけるのではないかと思う。

・今回の対策が一過性のものではなく、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとなるような取り組みにすることが共生社会の実現には大事。
・コロナ禍により移動等が制限される中、バリアフリーの議論がしぼまないか危惧もしていたが、今回のような協議検討ができたことは、何よりも私たちの自信にもなった。この関係性を今後も継続し、次の課題解消に向けて取り組ませていただきたい。
・作る側と利用する側、相互が理解と検討、工夫を行い、特急や急行列車、都市部だけでなく地方部へも波及することにより、交通バリアフリーはさらに前進し、また、一層の国民的な障害理解へのステップとなることが共生社会の実現に近づくことであり、また期待しているところである。
・共生社会の実現には「心のバリアフリー」の啓発も重要。私たち障害者自らも積極的取り組んでいくことが必要と考えており、引き続きご指導とご支援をお願いしたい。

（全国脊髄損傷者連合会：安藤事務局長）
・今回の検討は、我々車椅子使用者にとって、待ちに待った会議であり、第１回会議は、我々障害当事者の思いのたけを発言出来たと同時に、鉄道事業者の方々からも現状と課題を真剣に話していただき、我々の要望を真摯に受け止めていただいた。特に全脊連としては「切符購入に時間がかかる。短時間で購入出来るように」、「複数人が一度に乗車できるように」、「ミニ新幹線も同様に複数席を作っていただきたい」等々の要望をさせていただいた。
・我々全脊連の全国大会が、昨年６月に山形市で行われ、全国から１００名近くの車椅子使用者が参加し、内３０名近くが山形新幹線を利用したが、普通席・グリーン席に各１席しか車椅子スペースがなく、３０名が乗車しようとすると１５列車が必要となる。幸いにもＪＲ東日本のご配慮により、１列車に５名が乗車でき、滞りなく会議が開催できたが、デッキや通路等を利用しての乗車であり、大変不自由な思いをした方もいる。
・しかし、我々障害者団体の再三にわたる要望に応えていただき、本日提示された資料でも示されている通り、ストレッチャー式車椅子含み、４席以上設置いただくことになった事は大変喜ばしい限りで、深く感謝申し上げる。
・また、１０００席以上の新幹線についても、２回の実証実験を経て、新型車両から６席にしていただくことになったことにも感謝申し上げる。これにより、会議当初から要望してきた「車椅子使用者複数人での旅行が可能になった」ことは全国の車椅子使用者にとって大変な朗報になると思う。
・ソフト面でも、５月から新幹線すべてでウェブ申込が可能になったことも大変喜ばしい事であり、今後は「より使い勝手の良い仕組みにしていただく」よう強くお願いする。
・今回のこの会議を企画いただいた国交省鉄道局の皆さまのご努力、ご尽力に深く感謝申し上げると共に、最終まとめに記載の通り、「ＷＧ等を活用して定期的な意見交換の場を設け、新型車両の設計時にできる限り反映」させていただく事は勿論、今後在来線についてもご検討いただくようお願いし、感謝の意見とさせていただく。

（全国自立生活センター協議会：今村副代表）
・これまで２度の実証実験を含め、コロナ禍の難しい状況の中でも度重なる検討を重ねていただき、このような素晴らしいとりまとめに至ることができたことをご

尽力いただいた全ての皆さまに心より感謝。

・諸外国の高速鉄道を利用した経験から、「自分が居て良い空間」という表現で、他国とも比較して車椅子スペースの数の確保と充実を主張させていただいた。そうした私ども当事者団体の意見に、鉄道局、ＪＲの皆さまも真摯に耳を傾け、かつ互いの意見も主張し合い、共に考えてくれた。

・スケジュール的、技術的な制約もあり、次の新型車両開発時に持ち越さざるを得ない課題もあるが、今回、国・鉄道事業者・障害当事者団体のステークホルダー３者による検討の末に、席数やレイアウトをはじめ、このようなとりまとめがなされたことを僭越ながら高く評価し、喜んでいる。とりわけ、今後も引き続き意見交換の場を設けていただくことや、車椅子使用者のみならず、様々な障害を有する方々にも目を向け、真の共生社会の実現に取り組んでいくことが明記されたことは、一番のレガシーではないかと喜びを噛み締めている。

・このとりまとめに沿って新幹線が整備されると、間違いなく「誰もが当たり前に、快適に移動や旅を楽しむことができる、世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道」が実現する。「真の共生社会」の実現に向け、新幹線がその象徴となるべく、今後も共に考え、着実にリードして行ってくださることを切に願う。

（ＪＲ東海：金子代表取締役社長）

・今回のとりまとめについて、大変意義の深いことだと受け止めている。昨年の１２月の検討会以来、障害の有無に関わらず、誰もが快適に新幹線をご利用いただくことを目指して、障害者団体、国土交通省、ＪＲ各社とＷＧを通じて意見交換を行い、また、当社のＮ７００Ｓ試験車両を用いた実証実験を行うなかで、本日改善の方向性をとりまとめていただいた。８月３日の実証実験には大臣にもご参加いただき、皆さまのご協力に感謝申し上げる。

・障害者団体の皆さまからお話を伺い、改めて今回のとりまとめを実現することの重要性について、思いを新たにしている。当社として、窓際に面した車椅子用フリースペースをはじめ、とりまとめがなされた内容に合致した車両について、できるだけ早期に実現をしていき、実際の営業に供すことができるように取り組んでいく。また、ソフト面の対策についても、引き続き取り組んでいく。

・コロナウイルス感染防止の取り組みのなか、残念ながら新幹線のご利用は大幅に減っているが、当社は今年の３月にダイヤ改正を行い、のぞみの便数を１時間で最大１２本に増便し、７月には新型のＮ７００Ｓ投入といった便利で快適なサービスをスタートさせた。今回の検討会の内容を踏まえて、ソフト・ハード面の改善を行うことで、車椅子ユーザーの方々にもサービスアップをした新幹線のご利用を楽しんでいただけるように努力していく。

（ＪＲ東日本：深澤代表取締役社長）

・８ヶ月間の議論を受け、ハード・ソフト両面で共生社会にふさわしい世界最高水準の新幹線の実現に向け、一定の合意ができたことについて、改めて関係の皆さまのご尽力に感謝申し上げる。

・今回、当事者の皆さまとの率直な意見交換を通じ、様々な課題を乗り越えて今後のサービスの在りように関して一定の論点整理ができ、合意したことについて非常に意義深いことだと考えている。課題を整理しつつ、可能な限り早期に実現してまいりたい。

・これまでもホームドアやエレベーターといったバリアフリー設備の整備や、「声かけ・サポート運動」など、ハード・ソフト両面での取り組みを進めてきたが、

今回のＷＧにおける議論を踏まえ、一層の努力が必要であると認識を新たにした。
・一方で、今回の新型コロナウイルス感染症が私どもの経営に及ぼす影響は非常に大きい。今後とも、共生社会にふさわしい輸送サービスの提供を計画的に推進していくために、国においても引き続き、ご指導、ご支援をお願い申し上げたい。私どもとしても共生社会の実現に向け、多様なお客さまが安心・快適に当社をご利用いただけるように努めてまいりたい。

（ＪＲ西日本：長谷川代表取締役社長）
・この間、国土交通省をはじめ、各障害者団体と真摯に率直な意見交換をさせていただくことができ、感謝申し上げる。
・私どもも日頃より、どなたにも気持ちよく、快適にご利用いただける輸送サービスを提供していくことについては、非常に重要なテーマとして取り組んできているが、今回このような形で、とりまとめられたうえで新たなガイドライン、ガイダンスを作られたことを大変ありがたく思っており、内容とそのプロセスについてしっかりと行っていかなくてはいけないと思っている。
・今後とも私ども鉄道事業者として、バリアフリーの量的、質的な充実ということに今後とも業界として取り組んでいきたい。繰り返しになるが、バリアフリーの促進は、お客さま一人一人が安心して快適にご利用いただけるよう今後とも最大限取り組んでいく。
・一方で、国においても、こういった政策を促進していくという観点から制度的、あるいは財政的な促進施策についてもご検討いただければ幸い。

（ＪＲ九州：青柳代表取締役社長）
・今までもバリアフリーに関して省令やガイドラインに則り様々な取り組みを行ってきたが、今回の検討のなかで、様々なご意見を賜ることができ、また、貴重でかつ有意義な検討ができたことに大変感謝している。
・九州は本州地区に比べ、車椅子対応座席のご利用は非常に少ない状況であるが、今回の検討をきっかけに新幹線の利便性が高まり、利用のチャンスが増えることを大いに期待しており、そのためにもソフト・ハード両面で取りんでいきたい。
・これからも障害者団体や国土交通省、鉄道事業者の連携を更に強めながらスピード感を持って対応してまいりたい。

（ＪＲ北海道：宮越常務）
・これまで、障害者団体、国、ＪＲ各社で検討を重ねることにより、今回新幹線の新たなバリアフリー対策の方向性について合意された。皆さまのご尽力・ご苦労に感謝を申し上げたい。今後も国にご指導いただきながら、引き続き各社と連携して具体化・深度化に努める。
・今回のＷＧ、打ち合わせ等を通じ、様々な気づきを得ることができ、感謝申し上げる。

（事務局：岸谷技術企画課長）
・その他、ご出席者の皆さまからご意見等あればご発言いただきたい。
・（⇒発言なし）それでは、御異議もなかったということで、このとりまとめ案については了承されたものとさせていただく。

赤羽大臣挨拶（閉会）

（赤羽国土交通大臣）

・率直に申し上げて、昨年末の検討会立ち上げ段階においては、ＪＲ各社と障害者団体の間では、必ずしもお考えや目指すところが一致していない印象であったが、会議の回数を重ね、真摯に、精力的に率直な議論を重ねた結果として、概ねご意見の一致をみて、ＪＲ各社においても、新幹線の新たなバリアフリーの取り組みに決意を固めていただいたことに心から感謝を申し上げる。特に新型コロナウイルス禍で経営自体も大変厳しいなかでのご英断に重ねて感謝申し上げる。

・本日の検討会にて、今後の目指すべき方向として、東海道新幹線では６箇所、東北新幹線や北陸新幹線等では４箇所の車椅子スペースを備えた「車椅子用フリースペース」の設置や、この「車椅子用フリースペース」に対応したウェブ予約システムの導入等を進めていくことについて、とりまとめられた。

・先ほど障害者団体の皆さまから、これまでの利用状況ではなく将来の利用状況を見越した箇所数の実現について評価いただき、また、従来利用ができなかったストレッチャー式の長い車椅子も乗車できるようレイアウトされていることについても高くご評価いただき、心から私も嬉しく思っている。

・これは、他国の高速鉄道と比較しても、名実ともに世界最高水準のバリアフリーと言えるものだと考えており、このことにより、これまで以上により多くの障害を持たれた方が社会参加できるようになる、そういった社会が実現すると想像しただけでも、期待でワクワクする想いである。

・今後は、これをいつまでに実現するか、という点がポイントになるが、これまで私が繰り返し申し上げてきたように、来年夏に予定されている東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、１日も早く、車椅子用フリースペースを備えた車両の導入を進めていき、国内外からの多くのお客さまを温かくお迎えしていただき、成熟国家の鉄道事業者としての矜持を是非示していただくことが重要であると考えている。

・国土交通省としても、速やかにバリアフリー基準の改正作業に着手し、公布するので、ＪＲ各社においても、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に間に合うよう、ありとあらゆる手段を尽くし、最大限のご努力を改めてお願いする。

・また、国を中心に関係者が連携し、この新幹線の新たなバリアフリー対策の意義について広く国民に向けた情報発信に努めるなど、真の共生社会の実現に向けて利用者の「心のバリアフリー」にも取り組んでいく。

・先ほど障害者団体の皆さまからご要望が出たように検討会がこれで終わりという訳ではなく、引き続き継続することにより、残された中長期的な課題の改善に向けた検討会にしていきたい。また、是非ＪＲ各社においては、障害者団体の皆さまこそ、バリアフリー政策の良きアドバイザーとして、これまで以上に率直なお付き合いをいただきたい。

・最後に、これまでの皆さまの熱心なご審議や取り組みに対し、国土交通省を代表して改めて心より感謝を申し上げる。

以上